

## 5章 ビジョン実現に向けて

### 5-1 効率的・効果的な事業の実施に向けた取組み

この「ビジョン」で明確にした、県内の各港湾が担うべき役割や、その役割分野ごとの整備方針に基づき、既存施設の有効活用を図るなど、より効率的・効果的な整備の推進を図るため、ソフト・ハード一体となった取組みを進めながらより一層の港湾事業の重点化を図ります。

特に新たな施設の事業着手時期については、社会経済情勢の動向を見極めつつ、費用対効果分析を含む総合的な評価を実施し、事業の必要性・有効性・効率性などの検証を行ったうえで決定します。さらに事業実施中においても公共事業再評価システムによる検証も行っていきます。

### 5-2 利用実態に即したサービス提供と港湾計画へのフィードバック

港を活動拠点とする企業、荷主、旅行者や憩いを求めて訪れる人々などいろいろな形で港を利用する主体・人がいます。これら多種多様な港湾利用者とのパートナーシップのもと、港湾施設の利用実態に応じた施設の整備を進めることにより、港湾利用者の要望に応えるとともに施設の効率的利用が図れるように努めます。

主要な港ごとに策定される港湾計画は、将来における港湾のあるべき姿を描く行政計画ですが、利用者にとって使い易い港湾の整備を図るために、港湾計画の策定や改訂に際しては、港湾利用者の意向を汲み取るように努めます。そのため、広く県民の意見を聞くためのパブリック・コメント制度の導入や、熊本港や八代港に設けられている港湾振興協議会やポートセールス協議会などの場を通じた港湾利用者の意向を十分に把握し港湾整備に活かしていきます。また、現状における港湾の利用状況や綿密な将来の需要予測を実施して計画に反映させ、利用状況に応じた既存施設の有効活用、柔軟な港湾整備に努めていきます。

### 5-3 適正な維持管理

港湾施設のほとんどは、

- ・ 海水に接している。
- ・ 潮の干満の影響を受ける。
- ・ 軟弱な地盤上に築かれている。
- ・ 大型クレーンや大型トレーラーなど特殊な車輛機械が使われる。

といった状況にあるため、その他の土木構造物に比べ過酷な環境にさらされていると言っても過言ではありません。そこで、現在使われている港湾構造物が少しで

も長く健全な状態で使われるよう、適正な維持・管理に努めます。

特に、水俣病の原因となった高濃度の水銀を含む泥土により埋め立てた水俣港においては、独自の「水俣港埋立地管理補修マニュアル」を策定し、施設管理の徹底を行います。

また、船舶が航行する航路・泊地は船舶の喫水を考慮した水深が必要となりますが、有明海・八代海の自然特性で埋没しやすい状況となっています。そのため、国の協力を仰ぎながら埋没しにくい新たな技術開発を行うとともに、計画的な維持浚渫事業の執行を図り、船舶航行時の安全性の確保に努めます。

本ビジョンの策定に当たり、熱心にご審議いただいた「熊本県の港湾ビジョン」策定検討委員会の委員の皆様をはじめ、港湾利用者の皆様方、関係市町、そして、「県政パブリック・コメント手続」による意見募集においてご協力いただいた数多くの県民の皆様方に、心からお礼を申し上げます。

#### 「熊本県の港湾ビジョン」策定検討委員会

氏名(敬称略)	役職名	備考
宇野 史郎	熊本学園大学教授	
鳥飼 香代子	熊本大学教育学部教授	
松下 苓子	環境デザイン総合研究所代表	
三池 亮次	崇城大学教授	委員長
今 永 繁	国土交通省熊本港湾空港工事事務所長	